



No.28 (通No.107) 2022年2月4日

てつがく なかにわ

LEE'S レター 哲樂の中庭 2022年立春

仕事をこえて、さまざまに考えをめぐらせ、それをまた仕事にいかすアプローチ

見えない道の先に待つ、おのおのの春

あとがき再続、音続

音訳の練習にもなるかと昨年末に思いついた「あとがき」の音録。休日のスキマ時間などにやって、1月末で20本を超えました。一年前の事務行越しの際に、「これだけは!」と残した究極の本たち、その「あとがき」です。

それぞれの本を読んだ時に「あとがき」も読んだはずですが、内容はほとんど憶えていない、印象に残っているのはごくわずかでした。今回あらためてじっくり再読して、「あとがき」の〈直打ち〉を再発見しています。

著者の想い、完成までのいきさつ、エピソード、読者へのエール、等々。著者ごとに個性があり、「あとがき」の範疇をこえて別な物語のようなものもあり、「生みの苦しみ」も知って、著者と著作への親しみも増す音録です。

読書のご加護

「読書とは本業以外の本を読むこと」（堤清二）。読書という方法を10代の頃に教えてくれた周りの大人たちに、今さらながら感謝したのは10年ほど前です。自他ともに混沌としても、おかげで何とか自分を保つ精神の糧を得ていたと気づいたからです。

「コロナ」で未来に〈仕切り直し〉を迫られたわたしたち、仕事で出会う、これから世に出ようとする人たちに、「読書を心がけましょう」と必ず言うようになりました。わたし自身も続けます。



LEE'S (リーズ)

〒541-0046

大阪市中央区平野町1-7-1

堺筋高橋ビル5F Tel. 06-7160-0937

大阪NPOセンターRS B507

リー・ヤマネ・清実

Lee Yamane Kiyomi



旧暦の元日を1日に迎え、新旧ともに迎春となりました。春が立ちます。

「コロナ」は3年目、ふたたび「まんえん防止措置」、過去最大の感染者数にもなっていますが、この2年の社会学習（あるいは「慣れ」）もあり、全体には落ち着いた反応です。「ポストコロナ」の社会が本格的に組まれていく、その元年にあたりそうな2022年です。

1月28日付日本経済新聞に見開き両面の鮮烈な広告が載りました。「大谷翔平」の顔アップ写真が中央にあって、上左端に、自筆か、「大切なことは、」、下右端に、「ずっと変えない」。顔の少しはなれた右横に小さく、広告主の「次の時代へ。salesforce」。

ちょうど、この立春レターで共有しようと考えていたのは、そういうことでした。これまでとは違う次元の変化の真只中において、結局たちかえるのは、普遍的な価値を問い、自分自身の本当に信

じること、想うところをやっていく、それだけではないか、という内なる声です。

ちょっとしたきっかけがあって、4年前に『老子訳注 帛書道德経』（小池一郎 勉誠出版2013年）を買いました、40頁ほど読んで、またいつか読む時がくるだろうと、置いたままです。

読んだのはわずかでも、印象にのこった字文があり、第14章です。

「眼を凝らしても見えてこないものを、名づけて「微か」という」に始まり、とらえどころのない、不確実なこの世を生きるわたしたち人間のおかれる常を説いて、「今の道をしっかり握り、今の有（存在）を統御すれば、古の始原を知ることができる。これを道の紀と言う」と結んでいます。

「大切なことは、ずっと変えない」は、「古の始原を知ること」に通じると感じましたが、いかがでしょうか。

見聞感考 | 19年目のテレビデビュー、本町の『Giro』

昨年の夏頃にたまたまチャンネルを合わせてハマった日テレの『オモウマイ店』、なんとこの番組の1階のフレンチレストランが12月初めに取りあげられました。まさかこういう日が来るとは…人生なにか起るかわかりません、本当に。

2003年の春頃だったか、知人の一人が『Giro』を見つけ、腕の良さにびっくり。開店してまだ一年未満、価格をおさえたランチとディナー、これはもっと腕をふるってもらおうと、特別メニューの食事会を思いつき、親交のある何人かに声をかけ、定例のグルメ会が始まったのでした。

5年近くは続けたでしょうか、その後は自然消滅となりましたが、今でも私を含め女性3名がクリスマスディナーを年末の恒例としています。昨年暮れ、後日談もたのしみで行ってみよう。

いやいや大変なことになっておりました。テレビの影響はやはり凄く、しばらくランチを中断せざるをえない状況になっていて、ディナーの予約も満席、予約再開はなんと未定!

これまで紹介された店主たちに勝るとも劣らない独特のキャラクター、放送後の反響にもブレることなく、うらみ節、シロ一節も相変わらずで、お客側に好き嫌いはハッキリ分かれるタイプです。そのうち残る人は残り、落ち着く。

19年そうしてきて、今の『Giro』を支えるのは常連客。放映でもそれを物語る場面もありました。番組をみたお母さんが、いいお客さんに恵まれていると褒めてくれたそうです。地元関東を離れ、もう何十年も会っていない母親、思いやりが親孝行できたのか一番よかったのかもしれない。